

# 本はいま

プロ野球のパ・リーグ初制覇を果たした楽天。エース田中将大の不思議と負けない力に誰もが驚愕した。開幕20連勝を超す偉大な記録を達成。つい来季の大リーグでの活躍を期待してしまふ。そんなマー君の強さに迫る週刊誌の記事を三つ。

まず「週刊ベースボール」(9月16日号)のスペシャルインタビュー。田中は、優勝を狙う強い気持ちの重要性を説く一方で「去年と大きく変えたところなんてない」と語る。打者への力

## プロ野球、開幕20連勝超達成 マー君の強さに迫る

ムフラージユかもしれないが、真実ならば地道なトレーニングが実を結んだ成績だといえる。

実際に本人は無意識だとしても、今年の投手フォームには明らかに進化があるという。それを解説するのが「週刊現代」(9月7日号)のグラビアだ。筑波



田中将大投手の強さに迫った各誌の特集記事

リリースポイントが3センチほど前方に移った。これで低めの球が打者の手元で飛躍的に伸びるそう

だ。  
恩師の元楽天監督の野村克也氏は「週刊ポスト」(9月6日号)で、さらなる成長を求める。スライターとシユート、速い球と遅い球、ストライクとボール、高めと低め。その全てを自在に使いこなして「鉄腕」と呼ばれた稲尾和久氏の「針の穴を通す」コントロールには及ばないと。

私が野球少年だった大昔、地元福岡にあった「稲尾スポーツ」でクラブ購入時に稲尾氏から直々に教わった。「投げるも打つも肝心なのは体の軸。足腰を鍛えなさい」。今後のさらなる下半身の鍛錬によりマー君には「永遠に負けない」投手になっ

てほしいものだ。  
そんな理想的なフォームに加えて田中は今年、上半身を去年より約5度も深く前傾させ、

ト) (橋しんご・雑誌タッチョミンス)